

研究テーマ：語彙力を定着させる音読指導の工夫

所属 高知県立大橋高等学校

氏名 谷内 有紀

RG SH7

【アクションリサーチⅠ】

1 研究の背景

対象：2年生Ⅰ型21名（男子15名、女子6名）

実態：英語に対して強い苦手意識を持っている生徒が多く、男子生徒の中には教科書に出てくる簡単な単語も読めない生徒もいる。6名しかいない女子生徒は授業に対して非常にまじめに取り組むことができるため、男女の学力に大きな差がある。

2 リサーチクエスション

「教科書を読むために必要な語彙を、楽しく活動することによって定着させるにはどうしたらよいか」

3 予備調査

- ・授業中の活動は全てペアで行っているが、男子のペア2組が活動をしない。
- ・発音練習は男女共に声がよく出るが、音読練習で少し長い文になると声が小さくなる。
- ・活動ごとに複数のプリントを配布すると、生徒によっては混乱する者もいる。
- ・女子生徒は学習意欲が高いため、男子生徒に授業内容を合わせてしまうと退屈してしまう。

4 仮説の設定

仮説1：音読活動を多く実施すれば、生徒は必ず教科書が読めるようになる。

仮説2：これまで時間をかけていた和訳を無くせば、生徒が退屈だと感じる時間が少なくなる。

仮説3：各活動を簡単なものから徐々に難易度を高くする、あるいは生徒が難易度を選べるようにすれば、生徒がやる気になる。

仮説4：各課で使用するプリント等を使う順番に綴じて配布すれば、生徒が授業中に混乱せず授業に集中できる。

仮説5：ペア活動の後に、活動内容をチェックできる小テストを実施すれば、生徒は活動に参加するようになる。

5 計画の実践

まず授業方法を変更することを生徒に説明した。授業で使用するプリントは全て使う順番に綴じ、その中に本文の和訳も入れた。和訳をしていた時間を活用して音読等の活動を取り入れた。

6 実践の結果

音読活動を多く取り入れた結果、本文の音読テストでは生徒全員が読むことができた。1学期末のアンケートでは、クラスの約8割が新しい授業方法が良いと答えており、生徒の多くは授業中の活動にまじめに取り組んでいた。活動の難易度を徐々に上げること、また難易度を生徒が選べる方法を取ったことで、「わかった」「わからない」といった生徒の反応が返ってくるようになった。プリントを綴じて配布したため、生徒が混乱することがなく、授業中の指示が通り授業がしやすくなった。生徒は各活動後の単語テストには楽しそうに取り組んでいた。

7 結果の検証

活動を多く取り入れたことで、授業中に生徒が積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。しかし、音読テストに時間がかかり過ぎたこと、教科書の本文は読めるようになったが、それが定期試験の結果に出なかったため、語彙が定着したとは言えないことなどが今後の課題となった。

【アクションリサーチⅡ】

1 研究の背景

対象：アクションリサーチ I と同様

実態：英語に対する苦手意識は変わらないが、授業中の活動には積極的に取り組む生徒が増えてきた。また、アクションリサーチ I 実施前よりは生徒の反応も良くなっている。

2 リサーチクエスション

「教科書を読むために必要な語彙を、楽しく活動することによって定着させるにはどうしたらよいか」

3 予備調査

- ・ 1 学期期末試験前に実施したアンケートでは、和訳先渡し授業に対して肯定的な意見が多かった（約 8 割）。しかし、女子生徒から、和訳先渡し授業では文法などに不安があるという意見が出た。
- ・ アクションリサーチ I と同様、男子の中に数名活動をしたがらない生徒がいる。
- ・ 音読練習にはまじめに取り組むが、教師の声に反応しているだけの生徒も少なからずいる。

4 仮説の設定

仮説 1：音読テストに時間制限を設ければ、生徒はより真剣に音読練習に取り組むようになる。

仮説 2：音読テストと定期試験を結びつけることができれば、生徒は真剣に音読練習に取り組むようになる。

5 計画の実践

授業中の活動は、アクションリサーチ I で実施した方法に早く終わった生徒が取り組めるプリントや 3 種類の単語テストに「カタカナで単語テスト」を付け加えた。また、文法事項を確認するプリントを使用し授業中に説明するようにした。同時に、音読テストに時間制限を設定したが、更に時間を短縮するため、個人用のテープレコーダーを人数分購入し、授業中に一斉に音読テストが実施できるようにした。また、授業中の活動の一つである「穴なし穴埋め」を定期試験に出題することにした。

6 実践の結果

テープレコーダーを使つての音読テストは、私も生徒も初めての経験だったが、生徒は自分の声を録音することに大変興味を示しまじめに取り組んだ。また、録音した自分の声を生徒がその場で聞くことができるため、自分自身でチェックできることも彼らのやる気に影響したと思う。生徒の取組は良くなったが、2 学期中間試験に出題した「穴なし穴埋め」の問題は数名ができていただけで、以前から英語に対して苦手意識を持っている生徒はほとんどできていなかった。

この結果について、「シャドーイング」を取り入れてみてはどうかというアドバイスをいただき、悩んだ結果、音読テストとしてシャドーイングを実施することにした。そのため、仮説に「仮説 3：シャドーイングを音読テストにすれば、語彙が定着し定期試験の問題ができるようになる。」と付け加え、これまでの活動に少しずつシャドーイング練習を取り入れた。シャドーイング練習には全て CD を使用し、授業だけでは不安な生徒には、本文をカセットに録音して配布し家庭学習ができるようにした。シャドーイングテストは個別にカセットレコーダーに録音する方法で実施した。シャドーイングテストで本文全体のシャドーイングができていた生徒は数名だったが、生徒全員が最後まで懸命に取り組んでいた。

7 結果の検証

アンケート結果から、授業中の活動はまじめに取り組んでいるにもかかわらずシャドーイングができるようになったと感じていた生徒が少ないことがわかった。しかし 2 学期期末試験に出題した「穴なし穴埋め」で、中間試験ではできていなかった生徒も正答率を上げており、シャドーイングが効果的だったという意見が生徒からも出された。

8 成果と今後の課題

今回のアクションリサーチでの最大の成果は、授業者である私が、授業中に生徒の反応を観察しながら授業方法について真剣に考える姿勢を再確認できたことである。授業方法や各課の目標を生徒に説明したうえで授業を実践していくことができた。生徒の英語に対する苦手意識は根強いが、彼らは新しい授業方法やシャドーイングテストに戸惑いながらも授業に取り組んでくれている。今後も「定着」を目標に、アクションリサーチの対象クラスだけでなく、担当している全てのクラスで取組ができるようにしたい。